

平成 29 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : (株)NTTドコモ
研究開発課題 : IoT共通基盤技術の確立・実証
課題Ⅲ 多様なIoTサービスに活用可能なIoTデータ形式共通化・正規化・抽出技術の確立に関する研究開発
研究開発期間 : 平成 28 ～ 30 年度
代表研究責任者 : 石川 太朗

■ 総合評価 : 適

(評価点 15 点 / 25 点中)

(総論)

実ニーズから抽出できるサービス要求や要件を明確にしながら研究開発を進めることが望ましい。また、研究開発成果が多様なサービスに対応できるよう、機能のモジュール化など拡張性の確保や、アジャイルな開発を進めていくべき。

今後、ビジネスプロデューサーがリーダーシップをとって、将来のビジネス化を見据えてビジネス化に向けた研究開発のワークフローを策定し、課題間で共有した上で研究開発を進めることが望ましい。

(コメント)

- 実ニーズに根ざした研究開発であり、ニーズから抽出できる要求や要件を明確にしながら、研究開発を進めることが望ましい。要求や要件を明確にすることが本研究開発で極めて重要なポイント。曖昧なまま進めることでニーズにそぐわなくなる可能性がある。
- サービスによる拡張を早めに検討しておかないと手戻りが発生する恐れがある。
- IoTアプリケーションは今後も多種多様なものが登場してくるため、モジュール化なども考え、拡張性を確保しながら検討を進めていただきたい。
- アジャイル開発で進められるような体制を取るべき。まずは小さな成果を目指してほしい。

- 本プロジェクトを一つのきっかけとして、ドコモとしてのビジネスをしっかりと検討する場をビジネスプロデューサーがリーダーシップをとって作っていただきたい。IoTにドコモがどのようなスタンスで取り組んでいくのか、プラットフォーム化を目指すとしたらどこをプラットフォームとして第三者を巻き込んでいくのか、ドコモの強みはどこにあるのか等を真剣に検討を進めていくことで、本プロジェクトの意義も高まると考えられる。
- ビジネスプロデューサーが市場を見据えて、ビジネス化に向けた研究開発実施のフレームワークを明確化し、課題間で共有した上で進めるべき。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

正規化の粒度(時間や空間面積)について、サービスの拡張性を視野に入れた研究開発を行うことが望ましい。

多様なサービスが考えられることから、研究開発を進めるにあたっては、各開発工程を順次実施するウォーターフォールモデルの実施では手戻りが発生する可能性が危惧されるため、多様なサービスのシナリオに対応出来るよう開発を進めることが望ましい。

(コメント)

- サービスによる正規化粒度は同一でよいのか。
- 交通が主対象だとすると、上り・下りの方向による区別が必要となるのではないのか。
- 計画どおり進められているが、サービス拡張性についてももう少し検討すべきではないのか。
- 研究開発の進め方がウォーターフォールモデルとなっており、今後の手戻りが心配。ビジネス化シナリオとの対応が必要。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

特段の問題点はなく、適切な予算執行がなされており、妥当と判断する。

(コメント)

- 特段の問題点は見受けられない。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

対象サービスを限定せずに、多様なサービスに適用できるような構成が望ましい。
標準化との関係を明確化することが望ましい。

(コメント)

- 対象サービスを限定せずに、多様なサービスに適用できるような構成が望ましい。
- 標準化との関係を明確化してほしい。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

平成28年度実績及び平成29年度の実施計画に基づいた妥当な計画となっている。

(コメント)

- 特段問題は認められず、実績及び計画に基づいた妥当な計画である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

ビジネス化やそのためのエコシステムについても当初から見据えて研究開発を進めることが望ましい。

(コメント)

- ビジネス化やそのためのエコシステムについても当初から見据えて研究開発を進めてほしい。